

活動名：喜多方市蔵のまちフットサル5年生大会

日 程：平成26年1月18日（土）・1月19日（日）

会 場：喜多方市押切公園体育館

参 加：トップ5クラス（5年生男子6名＋4年生男子3名）9名

帯 同：渡邊・小松コーチ

結 果：16チーム中3位

対戦相手：1日目予選リーグ ○湯川FC ○喜多方中央 ○デランテロー
リーグ1位通過 決勝トーナメント進出

2日目決勝T：○喜多方南部 ●会津サントス ○河東

16チーム／第3位

感想：渡辺コーチ

毎年感じるのですが、この喜多方フットサル大会を経験した子供たちは、少し大人になっていきます。喜多方フットサルの会場は、観客席が2階となっており、スタジアムの雰囲気があります。この雰囲気の中で、自分たちの技術を何%出すことが出来るかがポイントとなります。

まず、大会に臨むにあたり、私自身、過去に何度も喜多方フットサル大会に帯同したことはありましたが、その時は、いずれも補助的な立場で参加していたため、今回初めて指揮をとりました。そこで最初に考えたのがクラスの特徴です。このクラスの印象は、「個性的な子供たちが多く、ちょっぴりやんちゃではあるが、意外に気持ちが小さい」といった印象です。個性派ぞろいの集団だけに力が一つになったときは、とてつもない爆発力を秘めていると思いプランを考えました。

大会初日に戦い方を子供たちに確認しました。

フレンドリー感覚で臨むのか、それともある程度勝敗にこだわるのか。子供たちは、私の問いかけに間髪入れず「勝敗にこだわりたい！優勝したい！」と訴えてきました。あまりの返答の速さに本当に驚きました。

このクラスの子供たちは理解度が高いことから、私は今大会最低限のことだけを伝え、あとは自分たちで判断し行動することを伝えました。

- ・シュートを相手チームの倍打つこと
- ・常にこぼれ球を狙うこと
- ・ペナルティーエリアに相手を進入させないこと
- ・ピッチの場所によりプレースタイルがことなるということ
- ・つまらないミスをしないこと
- ・チャレンジ&カバー
- ・仲間を信じること

- ・チームで行動すること
- ・元気よくあいさつすること

試合について、まず予選リーグですが、初戦は緊張と私自身が各選手のポジション適正を手探りで探していたため動きが固く3-0から一時は1点差まで詰め寄られ、試合の流れが相手チームに行きかけましたが、途中出場した選手が早々にゴールを決めるとそこから主導権を奪い返し、勝利。試合後すぐにミーティングを行い、子供たちと試合前に話した最低限の約束事について、再確認をしました。その中で、みんなと確認したことは、試合開始の4分間の戦い方です。最初の4分間を自分たちのペースで進めることができれば、残り時間も自分たちのペースで試合を運ぶことができることを子供たちに実感してもらうため、自分たちがボールを持っているのと、相手がボールを持っているのでは、どちらが楽なのかと問い掛け、考えさせ、そのために何をすべきなのかというヒントだけをあたえ2試合目に臨みました。

続く2試合目は、的確な判断とボールに対する出足の速さでゲームをコントロールし前半を無失点で負えることが出来ました。点差が開いたこともあり、後半は今回サポート的な立場で参加している4年生3人を全員出場させました。後半のメンバーも前半の流れを断ち切ることなく12分間をやりきり、無失点で勝利。

3試合目は、2試合目が終了してから時間が空いてしまったこともあり、苦しい試合展開となりましたが、子供たちが精神的に逞しくなり、しっかり勝つことが出来ました。結果、全員出場GK以外全員得点し、3戦3勝で初日を終わりました。

2日目の決勝トーナメント1回戦、昨日全勝したこともあり、子供たちの表情は自信に溢れており、良い状態で試合に臨むことが出来ました。この試合もベンチにいる選手からも応援の声が出るなど、チームに一体感が生まれていました。

そして、決勝トーナメント準決勝。

私が試合前に伝えたことを選手たちがピッチで表現し、そしてアレンジし先制点を奪う最高の展開で前半を1-0とリードして終了。後半もチームの約束事を守りながら、個々に持ち味を発揮していましたが、なかなか追加点が奪えず、時間の経過とともにだんだんと差し込まれる場面が増え、同点ゴールを決められると残り1分、ピッチ中央が開いた瞬間を相手につかれ逆転ゴールを奪われ万事休す。試合終了のブザーが鳴ると号泣。なんとも…。改めてフットサルの難しさを痛感しました瞬間でした。

試合後のミーティングでも目はうつろ。このあと、3位決定戦があるが、中々気持ちの整理がつかない。そんな状態でした。そこでもう一度、子供たちに「最後の試合、優勝出来ないからフレンドリー感覚でいくか、それとも勝敗にこだわるのか。」と問いかけてみまし

た。すると、真っ赤な目をしながらも全員が「勝敗にこだわりたい!」、「最後に勝って終わりたい!」と強く訴えてきました。

最後の3位決定戦。

心身の疲れもピークに来ておりましたが、全員が出場し見事勝利し堂々の3位入賞となりました。

本当にこの2日間、子供たちが一戦一戦、戦うことに強くなっていくのを感じ、私自身、子供たちから多くのことを教えられました。特にこのクラスの男の子たちは、「サッカーが上手になりたい」という思いが強い選手が多い。故に、衝突や仲間に対し厳しい口調で話してしまう場合があります。しかし、衝突することでお互いがお互いを知るきっかけとなり、最終的にはチームが一つになります。今回もそのような場面がありましたが、そこは子供たちで解決させるため見て見ぬふりをしました。なぜ、私が見て見ぬふりをしたのか、それは、ある1つのプレーがきっかけで失点したときでした。それを見た選手が「何やっつんだよ!」この言葉を聞いた瞬間、ミスを責める言葉は常日頃から注意していたので、すぐに注意しようとした思った瞬間、その選手は続けて、ミスをした選手に対し「お前しかそのポジションでできる選手がないんだぞ。集中しろよ!」と言ったのです。言われた選手も相手の目を見てゴメンと。お互いの信頼関係が成り立っているのを感じた瞬間です。もちろん、行き過ぎる場合は注意しますが、なんでもかんでも大人が介入してしまうと子供たちが判断し行動する場面

が極端に減ってしまい、自分の行動に責任が取れない人間となってしまいます。特にサッカーやフットサルは、試合前にゲームプランなどはコーチが伝えますが、実際にピッチでプレーするのは選手です。コーチが言ったからそうしたとか、親が言ったからこうしたとかでは、この先、必ず行き詰まることとなります。

コーチのゲームプランを聞き、試合の中で自分の目や肌で感じ、最適な判断を自分で下しプレーできる選手になって欲しいと思います。

そのためには、トラップ、ドリブル、シュート、パスといった基礎技術が必要です。試合では、相手選手がボールを奪いに来るわけで、トラップに自信がなければ、パスされたボールをトラップすることに集中することでしょう。もちろん、顔は下を向きます。その状態で周りは見えますか。ボールしか見えない状態で効果的なプレーが出来るでしょうか。伸び盛り育成年代である小学生に一番必要なことは、何でしょうか。子供たちの今も大切。しかし、未来はもっと大切です。今やらなくてはならないことをやるから、明るい未来があるのではないのでしょうか。

私たちのチームは、日頃からスキルアップ中心の練習を行っています。今回6試合行い、チームの育成方針が間違いでは無いということを確認出来ました。そして、多くの課題が見つかったことも事実です。

今後のトレーニングに反映させていただきます。

今回の喜多方フットサル大会について、心の中のリトル渡邊が、選手のみんな3位入賞おめでとう。来年は更なる上を目指そう！いつやるの？と言っています。そのためにも、日々を大切に過ごしましょう。コーチも日々勉強です。君たちが奪ったゴールは4 1 ゴール。来年は？ ゴール。

ご父兄の皆様、喜多方まで2日間、子供たちの送迎と応援ありがとうございました。また、泰知先輩、ほのか先輩ありがとうございました。

大会関係者の皆様、ご招待をいただき、ありがとうございました。

また来年もよろしくお願いいたします。



